

妊婦のための RS ウイルスワクチン (母子免疫ワクチン)説明書

1. RS ウイルス感染症とは

RS ウイルスは主に乳幼児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスです。1 歳までに 50%以上、2 歳までにほぼ 100%の子どもが少なくとも一度は感染するとされています。

主な症状

- 潜伏期間:2～8 日
- 発熱
- 鼻水
- 咳
- 一部では気管支炎・肺炎などの下気道症状

初めて感染した乳幼児の約 7 割は軽症ですが、約 3 割で咳の悪化や喘鳴(ゼーゼーする呼吸)、呼吸困難などがみられ、細気管支炎などの重症化が起こることがあります。

生後 24 か月未満では年間約 12 万～18 万人が発症し、約 3 万～5 万人が入院すると推定されています。

感染は接触感染・飛沫感染で広がるため、手洗いなどの基本的な感染対策が重要です。

2. 接種対象となる方

接種対象

- 妊娠 28 週 0 日～36 週 6 日までの妊婦

※過去の妊娠時に接種したことがある方も対象です。

※接種後 14 日以内に出生した乳児における有効性は確立していません。妊娠 38 週 6 日までに出産予定の場合は医師に相談してください。

接種を受けられない方

- 37.5℃以上の発熱がある方
- 重い急性疾患にかかっている方
- ワクチン成分でアナフィラキシーを起こしたことがある方

接種に注意が必要な方

- 妊娠高血圧症候群のリスクが高い方
- 血小板減少症・凝固障害がある方
- 抗凝固療法を受けている方
- 心臓・腎臓・肝臓・血液疾患などの基礎疾患がある方
- 過去に予防接種後 2 日以内に発熱や発疹などの症状があった方
- けいれんの既往がある方
- 免疫不全と診断されている方
- ワクチン成分にアレルギーの可能性のある方

3. ワクチンの効果

	生後 90 日	生後 180 日
医療受診を必要とする下気道感染症	約 60%予防	約 50%予防
重症下気道感染症	約 80%予防	約 70%予防

4. 副反応

重大な副反応として、ショックやアナフィラキシーが起こることがあります(頻度不明)。

	10%以上	10%未満	頻度不明
局所症状	疼痛(40.6%)	紅斑、腫脹	
免疫系			発疹、蕁麻疹
精神神経系	頭痛(31.0%)		
筋・骨格系	筋肉痛(26.5%)		

5. 接種後の注意

- 接種後 30 分は医療機関で安静にしてください。
- 医師の判断により他のワクチンと同時接種が可能です。
- 百日咳ワクチンとの同時接種では免疫応答低下の報告があり、接種間隔については医師と相談してください。

6. 健康被害救済制度

予防接種は感染症予防に重要ですが、極めてまれに健康被害が起こることがあります。そのため『予防接種健康被害救済制度』が設けられています。

接種を受けた本人および出生した児が対象となります。申請する場合は、接種時に住民票を登録していた市町村へご相談ください。

問合せ先
大牟田市保健衛生課保健予防担当
福岡県大牟田市不知火町1丁目5-1(保健センター『らふる』2階)
TEL:0944-41-2669